

少人数教育の充実に向けた取組

【会津教育事務所】

学 校 名	会津若松市立第二中学校
学年・教科等	全学年・数学科 第3学年・英語科

加配教員やサポートティーチャーを活用し、個別指導をより充実させる指導の工夫

1 少人数指導の計画等

(1) NRTの結果の分析

4月に実施したNRTの結果を各教科（国語、社会、数学、理科、英語）、学年ごとに分析を行い現在の学力の実態を把握する。内容については大領域・中領域・小領域ごとに分析し、全国正答率と比較して特に10%以上または10%以下の領域を洗い出し、指導に生かしていく。また、教科別・学級別の知能との相関一覧を利用し、アンダーアチーバーの生徒を把握し支援の充実を図る。

(2) 学力向上対策

5教科においては、NRTの分析結果を生かしながら学力向上教科プランを作成し、各学年の課題や実践事項を明確にし、年間を通して授業改善に努める。

また、各種コンテスト（漢字、英単語、計算）を実施し、基礎学力の定着を図る。

(3) 個別支援の充実

数学科・英語科では加配教員やサポートティーチャーを活用し、T・T指導や習熟度別による学習指導を行うことで、生徒一人一人に合った学習支援を全学年で実施する。また、家庭学習の充実に向け、学習ノート・生活ノートの確認を継続して行う。

2 実践の概要

(1) 教育相談の充実

生徒の知能検査やNRTの結果を分析し、学年全体で共通理解を図った。また、少人数を生かし、学級担任による教育相談やテスト後の学習相談の回数を増やし、一人一人に合った学習方法の助言に努めた。また、子どもとのコミュニケーションの時間を多く取ることでいじめの早期発見や未然防止に努めた。

(2) 授業の充実

4月当初に、全校性で学習ガイダンスを実施した。ここでは本校の教科教室型の目的やメリット、「5分前行動、2分前着席」「移動教室の流れ」「学習の手引き」等について確認し、学習指導の充実を図った。



【全校学習ガイダンス】

【會津教学「教えの心得」】

會津教学「教えの心得」を教職員で確認し、共通理解・共通実践に努めた。また、各教科ごとに研究テーマを設け、「授業における工夫」各教科ごとの実践に努めた。

(例) 数学科：①自分の考えを確立し、他者に伝えるための支援の工夫。自

分の考えをもつ時間を確保し、必要に応じて「個」→「ペア・グループ」→「一斉」→「個」という流れで授業を展開する。②「めあて・課題・まとめ」の関連付け。

(3) 個別指導の充実

全学年の数学科で、加配教員によるT・T指導と習熟度別の学習指導（月平均8時間）、サポートティーチャーによるT・T指導と習熟度別の学習指導（月平均8時間）を実施、3年生の英語科では、加配教員によるT・T指導と習熟度別の学習指導（月平均8時間）を実施した。英語科では、ALTとともに3人で授業を行うこともあった。

指導形態については、学習内容や生徒の実態に応じて打合せをし実施した。

(例) ① T1が一斉指導を行い、T2が個別指導に当たる。

② 習熟度別にT1とT2が別々に指導する。

③ T1とT2で一緒に一斉指導と個別指導に当たる。

特に数学の授業では、習熟度別のグループ学習を取り入れたことで生徒どうしが気兼ねなく発言できるようになった。また、他の生徒の発言を注意して聞くようになり多様な考え方もつことができた。

3年生を対象に補充学習の時間を設定し、一人一人のつまずきを指導することで、不得意教科や苦手とする領域の克服に取り組んだ。授業中に教師からの言葉かけや励ましの支援が日常的に行われることで、生徒が意欲的に取り組み、達成感や充実感を味わうことができた。



【T・Tによる学習風景】

3 成果と課題

○ 少人数を生かし、学級担任による教育相談やテスト後の学習相談の回数を増やすことができた。(学期に2回) また、授業中に言葉かけをする機会が増え、生徒と関係が深まり学習意欲も高まった。

○ 生徒一人一人に目を向けることで生徒理解が図られ、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で生活をしている。不登校生徒や別室登校生徒への個別の支援が、生徒理解につながり、復帰傾向の生徒が増えてきた。

● 「教えの心得」を全教師が日常的に継続し実施していくこと、学習形態や指導方法を工夫し、生徒一人一人が主体的に学ぶ授業の実践に努める。